

## 【実践報告】

# 教職実践演習（中・高・栄）の報告

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹原豊造  
人間福祉学科 教授 菅井直也  
初等教育学科 教授 徳本達夫  
人間栄養学科 准教授 藤井紘子

## 0 本演習の方針

教職実践演習が新設された意図を実現するために、従来通り今年度も以下の項目を重点目標とした。

1. 講義形式は極力避け、演習や事例研究、グループ討議を組み合わせる。
2. 複数の教員の協力方式で実施し、多面的な意見交換ができる場を設定する。
3. 教育に関わる諸問題についての歴史的経緯を概観する。
4. 最新の教育に関する動向を踏まえ、教育が社会に占める意義を確認する。
5. 教員として求められる4つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③幼児児童生徒理解に関する事項④教科等の指導力に関する事項）を可能な限り含める。

（参考 中央教育審議会 初等中央教育分科会 教員養成部会配布資料）

## 1 活動スケジュール

回	活動内容	回	活動内容
1	教職実践演習ガイダンス	2	課題についての自主活動
3	「私の心に残る教師」発表・討議（1）	4	「私の心に残る教師」発表・討議（2）
5	課題についての自主活動	6	課題についての自主活動
7	課題についての自主活動	8	「現場の教師に学ぶ」
9	課題についての自主活動	10	課題についての自主活動
11	「学校の直面する課題」発表・討議（1）	12	「学校の直面する課題」発表・討議（2）
13	課題についての自主活動	14	課題についての自主活動
15	「道徳模擬授業」発表・討議（1）	16	「道徳模擬授業」発表・討議（2）
17	課題についての自主活動	18	課題についての自主活動
19	「学級づくり模擬授業」発表・討議（1）	20	「学級づくり模擬授業」発表・討議（2）
21	課題についての自主活動	22	課題についての自主活動
23	「生活指導模擬授業」発表・討議（1）	24	「生活指導模擬授業」発表・討議（2）
25	課題についての自主活動	26	課題についての自主活動
27	「教育関連の時事問題」発表・討議（1）	28	「教育関連の時事問題」発表・討議（2）
29	課題についての自主活動	30	「私の目指す教師像」討議

## 2 活動の概要

### (0) 教職実践演習ガイダンス

本演習の意義について確認をした。

①教職実践演習は、教職を志す学生にとって「学びの軌跡の集大成」の役割を果たしている。教壇に立とうとする自分にとって、何が課題であるかを認識し、不足している知識や技能を補っていく指針を得る絶好の機会となる。

②教育に関わる諸問題の歴史的経緯を知ることにより、今日の問題についてより深い問題意識を身に付ける。

③本演習の活動テーマ（以下を参照）は教師にとっては基本的で不可欠なものであり、真剣に取り組むことにより、教職生活を円滑にスタートする助けとなる。積極的かつ意欲的な参加の態度が必要である。

### (1) 「私の心に残る教師」

#### ①活動のねらいおよび実際

本活動の主たる目的は、「優れた教師の資質を客観的に分析し、適切に表現する」ための手がかりを得ることにある。各自が「私の心に残る教師」というテーマで、これまでの学校生活で出会った心に残る教師について、その理由を含めて発表し、質疑応答する。

教職を志す学生にとって、幾多の優れた教師との出会いは大きな財産である。優れた教師から得た教育的愛情、知識、指導技術などは自らの成長にとって不可欠なものであったことは疑いのないところである。しかし、おそらくその印象は漠としたものであり、「なぜ、その先生が心に残ったの？」と問われても、その資質を的確にかつ適切に表現することは困難であろう。

本演習のまとめにおいては、「私の目指す教師像」のテーマで「優れた教師」の資質について討議する予定である。このまとめの段階で、「優れた教師の資質」、換言すれば、「これからの教員に求められる資質能力」とは何かについて、認識を深めることが本演習の大きな目標の一つである。

#### ②学生レポートより

○私の中で「Y先生は私のことをちゃんと知ろうとしてくれているな」と感じる事ができたからこそ、信頼し尊敬できた。中学生は多感な時期で、様々なことに悩み、苦悩し、反発し、親にも友達にも学校の先生にも相談できず、一人で抱え込んでしまうこともある。そんな折に一人でも信頼してみようと思える大人が周りにいることが子供たちの成長につながるし、信頼してあげるのが大人や教員の役割だと感じる。私は親や友人に言えなかったことも、Y先生なら素直に話せたことがたくさんあった。Y先生に出会っていなかったら、誰にも言えずに苦しんでどうなっていたのかなと想像もできない。

### (2) 「現場の教師から学ぶ」

#### ①活動のねらいおよび実際

特別支援教育の現場で活躍されてこられた講師の先生による講話を通して、発達障害についての知識を深め、発達障害を有する児童・生徒に対する望ましい対応について具体的に学ぶことができた貴重な機会となったようである。

#### ②学生レポートより

○自分が発達障害の子どもたちと接するためには、まず発達障害についての知識を十分に身に付けておくことが大切であると感じました。そして、教師には一人ひとりの子どもを理解しようとする気持ちがとても大切であることを学びました。

- 支援を特別な子どものためだけの特別な教育にするのではなく、通常学級ユニバーサルデザインが重要になってくると考えます。特別な配慮が必要な子どもには必要な支援は、実はその他の子どもにも役立つものであり、結果として全ての子どもの過ごしやすさや学びやすさが向上するように、教師が協力し合うことが必要であると感じました。
- 特別支援学級では一人ひとりの個性に応じられることにより、のびのびと学べる環境があると思いました。一方で、学校を卒業した後の支援についても考える必要があると感じました。

### (3)「学校の直面する課題」

#### ①活動のねらいおよび実際

本活動の主たる目的は、教育をめぐる諸問題についての基礎的な知識を共有することにある。いじめなど今日的な問題だけでなく、君が代・日の丸問題など歴史的経緯を知ることなくして語ることでできない諸問題についての基礎的な知識を、参加者全員で共有することを目指した。学生は割り当てられたテーマに関して、調査し発表する。その後、それについて討議する。

学生に提示したテーマは以下の通りである。「教育基本法の改訂」、「君が代と日の丸」、「学習指導要領」、「学力テスト」、「教科書検定」、「教育委員会」、「いじめ」、「就学支援」、「多忙な教員」、「教育公務員の地位」、「教科書無償制度」、「大学入試改革」、「小学校英語教育」、「中央教育審議会」、「ゆとり教育の功罪」

#### ②学生のレポートより

- 「君が代と日の丸」について認識が不足していた。私にとって「君が代と日の丸」はオリンピックの表彰式に登場するものでしかなかった。しかし、「君が代と日の丸」をめぐる、学校現場で犠牲者が出るほど混乱があったことを知り驚いた。入学式や卒業式では、何の疑問も抱かずに、国旗として掲揚し、国歌として歌ってきた。法律や教育委員会の指導の結果であるが、憲法で保障されている「思想信条の自由」との関わりから考えると、簡単には解決できない問題だと思った。
- 「いじめ」の発表の中で、数多くの事件があったことを知った。その中には、教師が関わった事件もあり、悲しくなった。いじめを根本から解決することは難しいでしょうが、教師としていじめを見逃さず、解決できる力をつけたい。

### (4)「道徳模擬授業」

#### <小学校版>

授業構想：道徳授業の特別教科化の意味と問題点を、道徳教育指導法Ⅰの振り返りを主として展開する。資料は、『文教教育』所収の小文と「手品師」授業報告書。道徳教育指導法Ⅰ等で配布した資料、文部科学省『小学校学習指導要領解説道徳』、同『生徒指導提要』。

授業の実際と課題：今日の子どもや教育を取り巻く諸問題を解決するために、道徳授業ができることを考える。実習先の児童生徒の実態に絡めて、道徳的実践力をもった児童生徒像へと児童生徒が変容するための道徳授業とは何か。

授業はすべて教員の人間性・専門性がにじみ出る。人間的な生き方を探求し続ける中で道徳教育は実質的なものになる。教職をめざす過程でどこまで価値的に高い教員に向けて自己形成しているか。そのような自己形成を続けることがそのまま今後の課題になる。教育はアートである。生き方の芸術としてのアートを、それぞれが自分で創造する。そこに他者が関わる。もともと違う存在が互いにねんごろに関わることによって変わっていく。自分の潜在的な資質能力が他者との関わりを通して、開花していく。「ちがう・かかわる・かわる」(大田堯)。

教育史・教育哲学者宮沢康人が強調するように、人類は「ホモ・ファーベル」(工作人)という人間観を持って生きてきた。自然に包摂された人間像ではなく、自然と対立する人間像である。自分が人類の背後にある、35億年の歴史を背負って生きているという感覚は生まれにくい。35億年の

歴史とは、人間の歴史ではなく、人間が誕生するはるか以前の自然の歴史である。自然に対する畏敬の念を欠いた「ホモ・ファール」は、これまで幾多の人工物を創造してきた。

現在進行形の原発問題に向き合うためにも、本質的な学びが欠かせない。教育における「中立性」を教育の条理や倫理から捉えない限りは、論争的な主題を避けるような自己規制の風潮が広がるだろう。特別教科化された道徳がめざす「考え、議論する道徳・問題解決型道徳」の標語はかけ声だけに終わりがねない。

#### <中学校版>

授業構想：道徳授業の特別教科化の意味と問題点を、道徳教育指導法Ⅱの振り返りを主として展開する。資料は「世界がもし百人の村だったら」および「卒業文集最期の二行」の自作指導案、授業で配布した資料、文部科学省『小（中）学校学習指導要領解説道徳』、同『生徒指導提要』。

授業の実際と課題：今日の子どもや教育を取り巻く諸問題を解決するために、道徳授業ができることを考える。実習先の児童生徒の実態に絡めて、道徳的実践力をもった児童生徒像へと児童生徒が変容するための道徳授業とは何か。

授業はすべて教員の人間性・専門性がにじみ出る。人間的な生き方を探求し続ける中で道徳教育は実質的なものになる。教職を目指す自分がどこまで価値的に高い教員に向けて自己形成しているか。より質の高い教員を目指して自己形成を続けることがそのまま今後の課題になる。

児童生徒の実態を知悉し、彼らの課題を踏まえた授業指導案の作成と授業展開が必要であることは共通の理解となった。

授業者による15分間の模擬授業を元にした授業展開であったこともあって、指導案に対する指摘も具体的になされていた。

現在進行形の原発問題等に向き合うには、本質的な学びが欠かせない。教育における「中立性」を教育の条理や倫理から捉え、論争的な主題を避けることなく、取り組むことが特別教科化された道徳がめざす「考え、議論する道徳・問題解決型道徳」の実質化になる。

#### (5) 「学級づくり模擬授業」

##### ①活動のねらいおよび実際

昨年度同様に、教師の仕事に大きな比重を占める学級指導について、新学期の初めを想定したマイクロティーチングを実施した。これに先立ち指導案を作成し、ポイント部分数分間のマイクロティーチングとした。学級の具体像の想定は自由とし、学生の想定は、小1・小4・小5・小6・中1・中2・中3・中高一貫校の高3と多彩であったが、クイズやワークシートなどを活用する案など、それぞれの工夫が見られ、これらの共有の場ともなった。

##### ②学生のレポートより

改めて児童生徒の多様性を認識した旨の報告、それを踏まえたプロセスの工夫の必要性に気づいた報告、教師側の思い・願いを伝える場面と児童生徒のそれとのバランスに気づいた報告などがみられ、「学級づくり」実践への動機づけとなった。

#### (6) 「生活指導模擬授業」

道徳授業の関連として、生活指導場面を想定した模擬授業を指導案の紹介と研究協議の中で深めた。

主題となったことは、言葉使い・生活態度・自他への尊重・身だしなみ・いじめ・スマホ活用等々であった。いずれも、実習期間中で出会った事例、自分の小中学校時代の実体験等が指導案のもとになっていたこともあって、研究協議の中でそのような点についても言及された。文科省『生徒指導提要』が強調する自己指導能力・自己教育能力の形成と向上を指導では限界があることも共通の理解となった。

指導が徹底するには、最終的には指導者である教員自身の人間性や生き方が鍵を握ることも再確認された。

児童生徒の心に響くような教師の説話があってこそ、生徒指導は効果を生む。道徳授業と同様、児童生徒の実態を知悉している学級担任であるがゆえに、児童生徒の実態に寄り添った、心に響くような指導が展開できるであろう。高学年児童や生徒が興味関心を抱いている性の問題に関する話題が出なかったのは、意外であった。

多様な学生の生活経験が話題に出たこと、対症療法的な指導ではなく、根本を踏まえた指導が必要であることが発表と討議の中で明らかになった。

## (7)「教育関連の時事問題」

### ①活動のねらいおよび実際

人間社会に生きる児童生徒や保護者と関わって生きる以上、授業や学級経営に没頭するあまり校外の社会情勢に無頓着になっている教員「ではない」センスは必須である。そこで、年間を通じて、教員に関連してニュースや話題になった事柄を選んで、その背景や本質を調べて考察し、解りやすく発表することを課した。

受講学生の取り上げたテーマは、「子どもの貧困」、「学校給食費の滞納」、「学校給食の牛乳廃止」、「選挙権年齢引き下げと高校教育」、「いじめによる自殺」、「デジタル教科書」、「急がれる教育のIT化」、「学校における家庭学習の指導」、「部活動顧問の過重負担」、「チーム学校の推進」、「副校長や教頭にかかる重い負担」、「教頭の降任希望」、「教職員定数削減」であった。

### ②学生のレポートより

○学校の環境を整えることが1番大切だということを（いじめ自殺問題をとりあげて）考えました。  
○子どもの支援をすることが、将来の世代にも関わっていくので今出来る支援を行うことが、如何に大切かが分かった。私自身も、子どもの支援や親世代の支援に関わるボランティアをやろうと思った。

○（自分が取り上げた以外の）時事問題について聞いて、すべて独立した問題ではなく、必ず他と関係、連鎖しているところがあり、1つの問題だけではなく、広い視野を持って、目を向けていかなければならないと思いました。そして、少しでもこういった問題を解決するために、私はまず何をする必要があるのか、改めて考えてみようと思います。

## (8)「私の目指す教師像」

### ①活動のねらいおよび実際

本活動は教職実践演習を総括する役割であり、主たる目的は「これからの教師に求められる資質能力」を明確にすることにある。

学生を4グループに分け討議し、各自が必要と考える資質能力を5つ挙げることにした。全員にipadを配布して、文部科学省HPで「これからの教師に求められる資質能力」を検索し、討議の参考とした。各グループの代表が討議の結果を発表した後、教師側も各自の考えを発表した。

### ②学生のレポートより

○例1「コミュニケーション能力」、「授業力」、「観察力」、「共感力」、「責任感」

例2「継続力」、「授業する力」、「判断力」、「教育的愛情」、「生徒を理解する力」

○この授業を通して、多くのことを学び自分が目指す教師像が明確になりました。様々なテーマについての発表や模擬授業を通して、自分の教育に関する知識の無さを痛感しましたし、発表後に先生方の意見や指導を受けて自分の教育に関する視点が大きく変わりました。もっと知識や経験を積むことが大切であり、そのことで生徒への指導も上手くいくのではないかと思います。最初の発表の時、みんなの印象に残った先生の話聞いて、親身になって相談にのってくれたり、

進路について助言してくれたりした先生について話す人が多く、そのことを聞いて自分も教師になったら、生徒が悩んでいること、困っていることに気づき、助言してあげたいと思いました。(中略)

自分はこの授業を通して、将来常に向上心を持ち、生徒と向き合い、生徒一人ひとりの小さな変化に気づき、生徒が楽しいと思える学級を作れる教師になりたいです。

### 3 反省と課題

実施すべき活動テーマは数多くあり、どれを取り上げるかが大きな課題であった。しかし、参加者相互の討議を深める時間を確保するために、活動テーマを精選せざるを得なかった。ICT教育、教室環境作り、教職員の服務、保護者との関わり、学校経営など多岐にわたるテーマを限られた時間の中でどう取り組んでいくかは大きな課題である。